

ブドウ「シャインマスカット」 短梢栽培における花穂整形法

明石秀也・米野智弥*・佐藤光明**・仲條誉志幸***

(山形県農業総合研究センター園芸試験場・*山形県農林水産部・**山形県最上総合支庁産業経済部

農業技術普及課産地研究室・***山形県西村山総合支庁産業経済部農業技術普及課)

Method of trimming flower cluster in short pruning at grape cultivar ‘Shine Muscat’

Shuya AKASHI, Tomoya YONENO*, Mitsuki SATO** and Yoshiyuki NAKAJO***

(Horticultural Experiment Station of Yamagata Integrated Agricultural Research Center・*Agriculture Forestry and Fisheries Department of Yamagata Prefectural Government Office・**Yamagata Mogami Agricultural Technique Extension Division・***Yamagata Nishimurayama Agricultural Technique Extension Division)

1 はじめに

ブドウ「シャインマスカット」は、発芽特性が優れることから山形県内でも短梢栽培による導入が進んでいる。しかし、樹齢の経過に伴う果粒重の増加や支梗の伸長によって、長梢栽培と同様の花穂整形を行った場合、出荷目標 (600～800g) よりも大房になりやすい特徴がある。そのため、短梢栽培における花穂整形長と果房品質について検討した。

2 試験方法

- ① 供試樹：「シャインマスカット」/テレキ 5BB 11 年生
(2014 年時) 短梢剪定 I 型、H 型仕立て 各 2 樹
- ② 試験区：開花始期の花穂長を表 1 のとおりに整形した。
- ③ 収穫調査日：2013 年 10 月 1 日 (I 型)、8 日 (H 型)
2014 年 10 月 7 日 (I 型)、8 日 (H 型)
- ④ 栽培方法：
栽培様式：簡易雨除けトンネル栽培
植物成長調整剤：開花直前、ストレプトマイシン (商品名：ストマイ液剤 20) 1000 倍、メピコートクロリド (商品名：フラスター液剤) 2000 倍を棚面全面散布
満開期、ジベレリン (商品名：ジベレリン協和粉末) 25ppm+ホルクロルフェニユロン (商品名：フルメット液剤) 2ppm、満開 10～15 日後ジベレリン 25ppm 花 (果) 房浸漬
着房管理：2013 年は主枝 1m あたり 7 房、2014 年は各区の穂軸長から収量を予測して 10a あたり収量 1.5t となるように主枝 1m あたり 4～7 房に制限
新梢管理：展葉 10 枚以降新梢と副梢の摘心を実施
果房保護：摘粒後にカサ設置、ベレゾーン期に白色袋被袋
土壌：中粗粒褐色低地土、草生栽培

3 試験結果及び考察

【2013 年】

- ① 2.0 区は収穫時の穂軸長が 7.0cm 以下、着粒数が 32 粒

程度と少ないため、果房重 600g 以下の果房割合が多かった (表 2、図 1)。

② 3.0 区は 600～800g の果房割合が多かった (図 1)。

③ 4.0 区は穂軸長が 11.0cm、平均果房重が 900g を越え、1000g 以上の果房も発生した。また、2.0 区や 3.0 区と比較して果粒重が軽かった (表 2、図 1)。

④ 花穂整形長の違いによる糖度や酸度への影響は見られなかった (表 2)。

【2014 年】

① 2014 年は花穂整形時期がやや早く、穂軸長の伸長が旺盛であったため、2013 年よりも大房傾向であった (表 2)。

② 3.0 区は 800～900g の果房割合が多かった (図 2)。

③ 3.5 区は 3.0 区と比較して摘粒前で約 10 粒、収穫時で 3.5 粒多く、平均果房重は 60g 程度重く、収穫果房の 30% 以上が 1000g 以上であった (表 2、図 2)。

④ 4.0 区の果房重は平均で 1100g を越え、収穫果房の約 80% が 1000g 以上であった (表 2、図 2)。摘粒前の着粒は 100 粒を越えており、摘粒時の労力が最も多かった。また、4.0 区は 3.0 区や 3.5 区と比較して果粒重が軽かった (図 3)。これは着粒数が多く初期の肥大が抑制されたためと考えられた。

⑤ 3.0 区は果粒の揃いと果房のしまりが良好となり、果房外観が優れた (図 4)。

4 まとめ

2 カ年の結果より、ブドウ「シャインマスカット」短梢栽培では開花始期の花穂長 2.0cm では果房重 600g 以下、4.0cm では果房重 1000g 以上の果房割合が多くなった。以上のことから、開花始期の花穂長を 3.0cm 程度に整形することで出荷目標に合致した果房を得ることができ、収穫時の果房品質、摘粒労力等の面から適当であった。

表 1 試験区の概要【2013・2014 年】

年度	試験区	開花始期 花穂整形長	試験規模
2013 年	2.0区	2.0cm	各区10花穂 4反復
	3.0区	3.0cm	
	4.0区	4.0cm	
2014 年	3.0区	3.0cm	
	3.5区	3.5cm	
	4.0区	4.0cm	

表 2 収穫時の果房品質

年度	試験区	果房重	果粒重	果房長	果房幅	着粒数 (粒)		穂軸長	支梗数	糖度	酸度
		(g)		(cm)		摘粒前	収穫時	(cm)	(段)	(Brix%)	(g/100ml)
2013 年	2.0区	572.3	17.6	16.1	12.0	36.5	32.7	6.9	8.4	18.0	0.26
	3.0区	718.0	17.2	17.9	12.6	46.8	40.6	9.2	11.3	18.4	0.25
	4.0区	907.0	16.5	20.3	12.5	68.2	56.2	11.0	15.7	18.1	0.26
2014 年	3.0区	893.7	16.4	18.4	12.7	74.3	53.5	10.4	16.0	17.4	0.26
	3.5区	953.1	16.4	19.5	12.6	83.5	57.0	11.6	17.4	18.0	0.22
	4.0区	1116.0	15.8	21.5	13.5	106.3	69.7	13.9	20.4	17.7	0.22

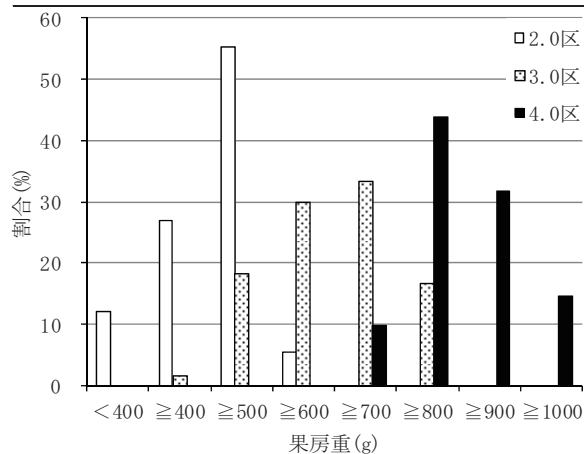


図 1 収穫時の果房重割合 (2013 年)

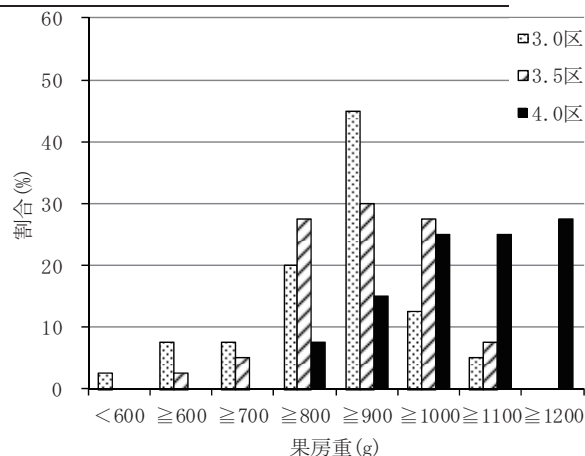


図 2 収穫時の果房重割合 (2014 年)

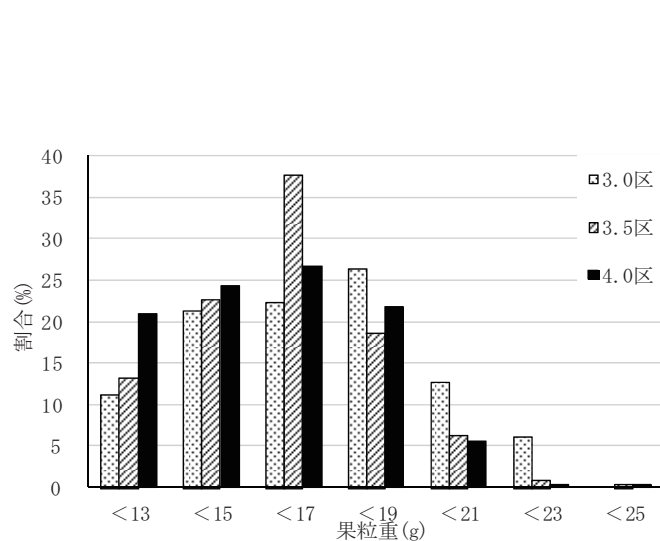


図 3 果粒重割合 (2014 年)

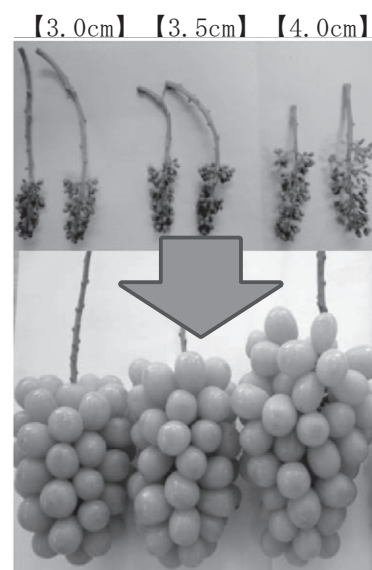


図 4 収穫時の果房外観 (2014 年)